

公園内で見られる植物

写真は12月15日(土)
自然観察会で見られた
植物等です



クロガネモチ (モチノキ科)

街路樹としてよく利用されています。冬の赤い実がまとまって付き、緑の葉の中に赤い実が車からでもよくわかります。樹形がとても素敵です。葉柄が赤黒いのが特徴です。「クロガネモチ」は「金持ち」に通じる事から縁起の良い木として庭木として好まれます。実は多くの野鳥が好んで食べるようです。モチノキよりも寒さには弱いそうです。



ゴズイ (ミツバウツギ科)

葉が落ちて熟しきった赤い実が裂開して黒い種が目立ちます。材がもろく役に立たないところから、役に立たない代表の魚ゴズイ（白い縞模様あり）！！て知っていますか？私の肌に白いスジがあるから付けられたって？失礼な！！



ヒサカキ (ヒサカキ科)

神を尊ぶ、内気、治癒が花言葉。そのためかよく神様を祭るために使われます。仏前に供えるシキミの代用品として使われています。名前も「非サカキ」から付けられたと言われています。実は染料として、枝葉の灰は染物の材料、材は薪炭材として使われています。



アマチャヅル (ウリ科)

「路傍の雑草から素晴らしい成分発見」として茎葉に朝鮮人參と同じ成分を含むことが分かって脚光を浴びましたが、今ではすっかり忘れられています。生の葉をかむと、かすかに甘みがあるので4月8日の花祭りの甘茶を作るアジサイの仲間のアマチャになぞらえたものです。ヤブガラシとよく似ていますね。実をよく見ると萼や花冠の跡が環状に残っています。



イボタノキ (モクセイ科)

イボタロウムシ (カイガラムシの仲間) がよく寄生していることからこの名前が付けられました。名前はかわいくないけど、5月頃白い小さな総状花序をだした花はかわいらしいです。キンモクセイに似た香りがします。晩秋には楕円形の紫黒色の果実を付けます。



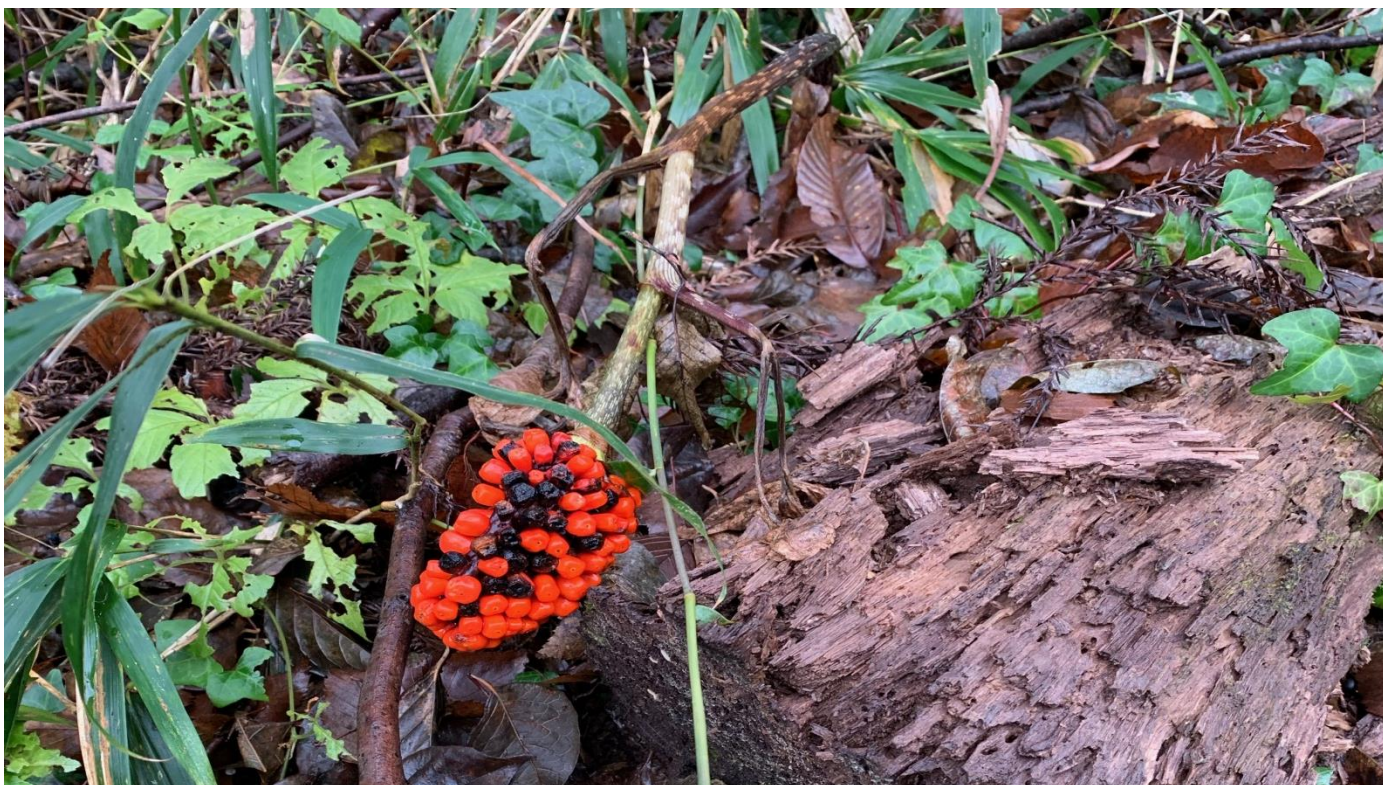
スイカズラ (スイカズラ科)

藪などに自生して、目立ちませんが5月頃には白～淡いピンク色の花を次第に黄色に変化させます。甘い香りの黄色の花を見つけるとホッとします。秋の終わりには黒い実を2個ずつ付けます。



カキノキ (カキノキ科)

すっかり葉を落とした柿木。私たちの生活に密接した柿木。1, 500もの品種があるそうです。今年は何によってですが、私の所では実が小さかったものの豊作でした。柿渋は、渋柿を発酵させてとるようですが、一度作ってみたいものです。



マムシグサ (サトイモ科)

赤くびっしりと付いた果実。そしてまだら模様。連想しなくてもやっぱりマムシを連想します？残念ながら、茎のところがマムシの模様そっくりなのが名前の由来です。でも毒々しい色の実だと思いませんか？実際毒があるそうです。